

テレビ局の現場を体験し「仕事」について考える

～株式会社テレビ東京の校外学習プログラム～

株式会社テレビ東京では、メディア企業として番組制作を通じ、社会をより良くするための情報を提供することをはじめ、あらゆる事業活動で社会や環境へ配慮し、社会の一員として社会貢献活動を行うことを「CSR」という言葉が普及する前から実施しています。その中でもメディアの役割や使命を、次世代の子供たちに伝えていくことを重要なCSR活動と位置付け、今回紹介する小学生～高校生を対象にした校外学習プログラムを平成21年度から実施しています。

テレビ東京本社に生徒を受入れて実施する本プログラムは、テレビ局の仕事やテレビの仕組みなどについて学び、「仕事」について楽しく考える機会を提供することを目的に、緊張感漂う生放送中の副調整室の見学や、時には現場のディレクター・アナウンサー等との交流など、単なる職場見学に留まらない様々な体験を織り交ぜ、生徒に仕事を実感してもらうための様々な工夫がなされています。当初は東京への修学旅行生が主な対象でしたが、最近ではキャリア教育の一環として職場体験などで訪れる生徒が増えているそうです。

昨年秋には社内のCSR推進委員会で全社的な協力を得られる体制を整え、今年4月からは校外学習専任担当者を設置するなど、社を挙げて受入れ体制の整備を図った結果、参加する生徒数は大幅に増え、今年度は9月末現在28校204名の生徒の受入れを行っています。

今回は、都立王子総合高等学校1年生12名が、授業の一環として本プログラムを受講している様子を紹介します。

プログラム紹介

■ 講義・ビデオ学習

「テレビ東京のお仕事とは？」という概論ビデオやバラエティ番組・報道番組のメイキングビデオなどで、基本的な番組制作の過程などについて見学前学習を行いました。

■ サブコントロールルーム(副調整室)見学

映像、音声の切替えなどの管理を行うサブコントロールルームで、お昼のニュース(生放送)の様子を見学しました。1秒単位で時間を管理し、ミスの許されない緊迫した状況で、スタッフが迅速に作業を行っていました。

■ スタジオ見学

ニューススタジオや収録スタジオでカメラリハーサル等の様子を見学しました。写真はニューススタジオでアナウンサーの方と共にニュース原稿を読む体験をしている様子

■ ディレクターとの質疑応答

生徒からは、「どのようなことに気をつけて番組を作っているか」「一番印象に残っている仕事は」などの質問が寄せられ、ディレクターは自分の体験・経験から感じたこと、仕事にかける思いなどを丁寧に、そして本音で話されていました。



カメラ体験



サブコントロールルーム(副調整室)見学



スタジオ見学



ディレクターとの質疑応答

王子総合高等学校 井上佳菜美 先生のコメント

王子総合高等学校は総合学科高校として普通教育と専門教育を総合的に学べる体験的な学習を多くそろえています。その科目群が五つの系列にまとめてあり、他の総合学科高校との違いにもなっています。また、系統的なキャリア教育体制を整えています。

本校の1年生は全員、授業の一環で夏休みに職場訪問をします。その訪問先の一つとして、メディア・ネットワーク系列が設置されていることもあり、校外学習を実施しているテレビ東京にお願いしました。

事業説明、見学、体験、インタビューと多彩なプログラムで、生徒達は関心を持ち、自然と自ら学ぶ姿勢になっていました。普段接しているテレビの裏側に触れ、仕事や社会の事を考える貴重な機会になったと思います。

山田由美子さん、高塚有香さん(株式会社テレビ東京総務局総務部)にお話を伺いました。

テレビ東京の「校外学習」は、「映像で理解」「実際につくっている人から話を聞く」「現場を見る・体験する」の三つの要素で構成されています。生徒の皆さんには、一つの番組をつくるのに沢山の仕事があり、多くの人が関わっていて、良い仕事はチームワークで成り立っているということ、どの大人も自分の仕事に誇りと使命感を持っているということ、そうしたものづくりの楽しさや素晴らしさを知ってほしいと思います。

学校は社会に貢献する人を育成する場所、企業は仕事を通じて社会に貢献する場所。様々な形で交流できればもっと良い社会になると思います。プログラムは開発途中です。皆さんの意見を聞かせていただき、更にいいものにしていきたいので、是非遊びにいらしてください。